

義務教育学校3校をつなぐ連絡協議会を設置し、CSを生かした学力向上策と持続可能な地域社会との協働のあり方を探る(鳥取県鳥取市)



- 平成28年度より「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」を活用し、福部未来学園が幼・小・中一体となった運営協議会を設置。「特設の教科」に運営協議会が関わる可能性等について研究。
- 平成30年4月鳥取市に3校の義務教育学校が開校(福部未来学園・鹿野学園・湖南学園)。3校それぞれの強みを生かした連携を探る「**義務教育学校3校をつなぐ連絡協議会**」を設置。

学校評価の専門家を招聘し、
成果指標を策定



開学を前に先進校を視察



住民への説明会を繰り返し開催



教職員に向けて教委が説明



義務教育学校3校をつなぐ連絡協議会

- ・各校CS委員、地域連携担当教員が集まり、校区の強みと課題について情報交換
- ・市教育委員会が主導し、「**社会に開かれた教育課程**」をキーワードとして学力向上策を検討
- ・PDCAサイクルを適切に回すため、成果指標の策定に外部講師を招聘

福部未来学園運営協議会

鹿野学園運営協議会

湖南学園運営協議会

小中一貫教育の強みを生かした特設教科「みらい科」により、地域素材を生かし、探究、発表、振り返りのサイクルをまわす。

校区にある劇場「鳥の劇場」を活用。創作表現活動を中心とした特設の教科「表鷲科」を中心に社会に開かれた教育課程を研究

地域の教育力・多種多様なボランティア組織を総動員した「運営協議会設置に向けた準備会」を開催。ビジョンや課題を共有する中で機運が高まり設置を前倒し。

強みや悩みを共有

強みや悩みを共有



地元の名産「砂丘ラッキョウ」を東京でPR



劇場を借り切って表現活動を展開



特例校として早くから「コミュニケーション科」の教育課程を研究